

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成30年8月17日

計画の名称	16 大分駅周辺の民間投資を喚起するための基幹的交通インフラの整備										
計画の期間	平成25年度～平成29年度(5年間)					交付対象	大分県、大分市				
計画の目標	大分駅へのアクセス改善と大分駅北口駅前広場の交通結節点機能の強化及び中心市街地につながる賑わいの創出										
計画の成果目標(定量的指標)	①大分駅へのアクセス改善率129%の向上 ②大分駅北口駅前広場の歩行者通行量4,012人の増										
定量的指標の定義及び算定式	①大分駅への歩行者、自転車、自動車、バスなど様々な交通によるアクセス時間短縮の目安となるアクセス道路の改善率 ②中心部へつなぐ賑わいの目安となる大分駅北口駅前広場東西ポイントの金・土・日曜日3日間の歩行者通行量の合計 ①改善率(%) = 整備後のアクセス道路改善面積 / 整備前のアクセス道路改善面積 * 100 ②歩行者通行量(人) = 平成29年度の歩行者通行量 - 平成24年度の歩行者通行量					定量的指標の現況値及び目標値			備考		
						当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)			
						0%	-	129%			
						40,132人	-	44,144人			
全体事業費	合計 (A+B+C)	5,275百万円	A	4,283百万円	B	-	C	992百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		18.8%

事後評価(中間評価)

○事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期	
事後評価(中間評価)の実施体制	事後評価(中間評価)の実施時期
事業担当課において、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証	平成30年9月
	公表の方法
	大分県建設政策課ホームページで公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H25	H26	H27	H28	H29		
A1	街路	一般	大分県	直接	大分市	区画	改築	大分駅南地区(大分駅北口駅前広場外)	区画整理 A=49.6ha	大分市						1,840	
A2	街路	一般	大分県	直接	大分市	S街路	改築	(都) 県庁前古国府線	現道拡幅 L=0.3km	大分市						2,443	
											小計(道路事業)		4,283				
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H25	H26	H27	H28	H29			
											合計						
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H25	H26	H27	H28	H29			
C1	街路	一般	大分市	直接	大分市	施設整備	大分駅南地区(駅前広場)	シェルター、修景施設	大分市						905		
C2	街路	一般	大分市	直接	大分市	施設整備	タクシー待機所整備	タクシー待機所	大分市						17		
C3	街路	一般	大分県	直接	大分市	基本計画	鉄道残存敷利活用計画策定	基本計画・利活用社会実験	大分市						700		
											合計		992				

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
C1	大分駅北口駅前広場(A1)と一体的にシェルター及び修景施設を整備することで、交通結節点の機能強化と賑わいの創出を促進する。	
C2	大分駅北口駅前広場(A1)と一体的にタクシー待機所を整備することで、交通結節点の機能強化を促進する。	
C3	連続立体交差事業により発生した鉄道残存敷の利活用方法について、新たな公共空間(市民が思い思いに使える広場的空間)の創出に向けて、基本計画や官民協働による運営管理手法を検討するなど、基幹事業と一体となった事業計画を策定し、中心市街地の賑わいを創出・促進する。	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場の整備に合わせてシェルター（雨よけ）を整備したことで、交通結節機能が強化され、中心市街地の賑わいが創出された。 タクシー待機所整備にあわせて、ショットガンシステムを導入したことにより、駅周辺でのタクシーの不必要な走行が解消され、交通の円滑化が図られた。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①（改善率）	最終目標値	129%	目標値と実績値に差が出た要因	指標の対象となる（都）県庁前古国府線について、平成29年度から別事業のパッケージ（防災・安全交付金）へ移行したことから、目標値を下回った。
		最終実績値	0%		
II 定量的指標の達成状況	指標②（歩行者通行量）	最終目標値	44,144人	目標値と実績値に差が出た要因	平成27年3月に大分駅北口駅前広場が供用開始され、翌月には大分駅ビルが開業するなど、官民の整備・開発が進んだことにより、目標値を大きく上回る結果となった。
		最終実績値	66,085人		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		大分駅南土地区画整理事業に合わせて、大分駅を中心とした南北市街地を一体化させた大分駅付近連続立体交差事業や南北市街地の面的一体化の効果を高める南北交通の円滑化と、大分駅周辺への交通アクセス機能を向上させることで大分駅を中心とした交通結節機能を高めることができた。			

3. 特記事項（今後の方針等）

（都）県庁前古国府線については、平成30年度より社会資本総合整備計画（各都市圏における歩行者等の安全を確保する街路整備（防災・安全））により継続することとし、事業進捗を図る。

